

## 乳頭に優しい搾乳で乳質改善を

釧路管内の月別体細胞数の推移を見ると、毎年6月から上昇する傾向が見られます（図1）。夏に向かい、牛にとって暑熱、粗飼料の二次発酵など体調を崩す要因も多く待ち受けています。

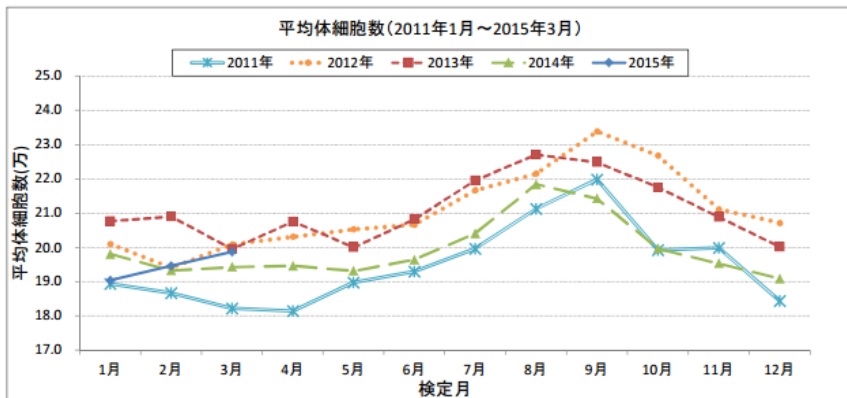


図1 釧路管内における平均体細胞の推移



写真1 乳頭スコア1

写真2 乳頭スコア4

今回は体調を保つても体細胞を上昇させる、搾乳時の乳頭について考えます。乳頭は牛乳生産の唯一の開口部です。乳頭に優しい搾乳を意識することで、体細胞の上昇を抑えることができます。

**一、乳頭の状態を確認しよう**

一般に乳頭の状態は1～4のスコアで評価されます。スコア1（写真1）は滑らかな乳頭で損傷が見られないもので、健康な乳頭です。スコア4（写真2）は乳頭口の損傷が大きく、乳房炎原因菌が進入しやすく、また、乳頭拭の際に雑菌が拭き取りにくく乳房炎に罹患しやすくなっています。

まいます。

## 二、乳頭に優しい搾乳

乳頭を痛める大きな原因の一つが、過搾乳（空搾り）です。過搾乳とは、射乳していない時に搾乳ユニットが装着されている状態で乳頭口は高い真空圧にさらされ痛めてしまっています。過搾乳を防止するポイントは次の通りです。

### ① 搾乳初期の過搾乳

オキシトシンがピークに達するのには前絞りの乳頭刺激から60から90秒要します。ミルカー装着までの時間が早すぎたり、遅すぎると射乳が始まるまでの時間、乳頭に高い真空圧にさらされ乳頭口を痛めることになります。オキシトシンを意識した正しい搾乳手順が重要です。

### ② 搾乳中期の過搾乳

搾乳途中においても過搾乳の状態が起こります。オキシトシンを打ち消すホルモンにアドレナリンがあります。搾乳中の大声や牛体への不快なストレスによりアドレナリンが発生すると射乳が中断され、乳頭が過搾乳の状況になります。

搾乳者の牛の扱い、ミルカーの不調などのストレスがアドレナリン

### ③ 搾乳後期の過搾乳

残乳を過度に意識するより、自動離脱の設定不具合、マシンストリップングなど搾り切ろうとする事が乳頭口を痛め、体細胞を上昇させる事につながります。以上のことから乳頭に優しい搾乳を心がけ、搾乳手順、ミルカー管理などを見直しましょう。

ンの発生原因となります。

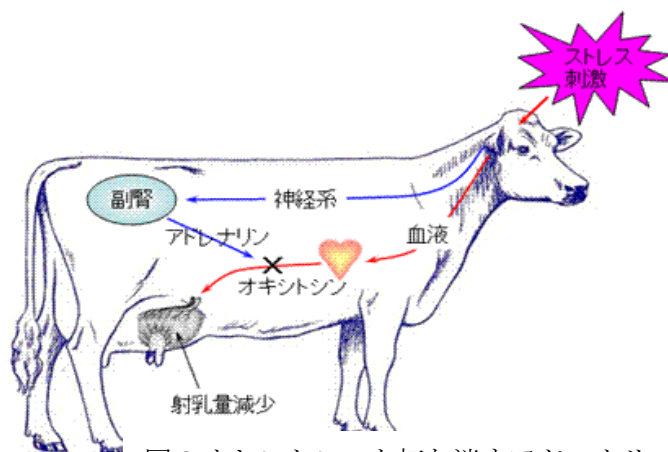


図2 オキシトシンを打ち消すアドレナリン